

創業44年  ロイヤルハウジンググループは「小さな親切心」を持って「しあわせのお手伝い」をしています

広告

4つのホットな支援サービス **子育て支援** **高齢者支援** **障がい者支援** **働く女性支援** (働き方改革)

心をつなぐ Vol.9

日本・スウェーデン外交関係樹立150周年記念 Dementia Forum X Japan レポート

認知症と共に自分らしく生きる

「認知症」について学び合う場として、スウェーデンで始まった Dementia Forum X。告別、日本・スウェーデン外交関係樹立150周年記念として、シルヴィア王妃陛下ご臨席のもと日本でも開催された。様々な専門家たちが意見を交わし、活発な議論が行われました。ロイヤルハウジンググループは本フォーラムに協賛し、今や国際的な社会問題である「認知症」について、福祉先進国であるスウェーデンと共に学びます。今回はその一部をレポートします。

「認知症」こそ最大の国際課題



©JSCI 西野弘氏談

高齢化は先進諸国にとって共通の課題ですが、中でも社会の根幹を揺るがしかねない課題が「認知症」です。日本の認知症患者数は2012年時点で約462万人（厚生労働省発表）、65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計されています。人口割合でも欧米より多く、まさに一刻の猶予もない状況です。残念ながら、認知症はまだ「治る」病ではありません。今後20年、画期的な新薬は生まれないうと予想されています。

「認知症」は、専門教育機関として「財団法人シルヴィア・ホーム」を設立されました。一國の王妃が自ら率先して認知症ケアを訴えたのは、理由があります。実家のお母様が認知症となり、宮殿へ呼び寄せ自ら在宅介護をなされたことが、王妃教育の必要性を肌身に感じたのだそうです。日本でも2005年日本スウェーデン福祉研究所によって教育プログラムが導入。今では日本各地13ヶ所、7万人が参加しています。（本フォーラム エグゼクティブアドバイザー 西野弘氏談）

「認知症」は、専門教育機関として「財団法人シルヴィア・ホーム」を設立されました。一國の王妃が自ら率先して認知症ケアを訴えたのは、理由があります。実家のお母様が認知症となり、宮殿へ呼び寄せ自ら在宅介護をなされたことが、王妃教育の必要性を肌身に感じたのだそうです。日本でも2005年日本スウェーデン福祉研究所によって教育プログラムが導入。今では日本各地13ヶ所、7万人が参加しています。（本フォーラム エグゼクティブアドバイザー 西野弘氏談）

「社会的疾病」である認知症は、社会で支える。東京・世田谷区で400名以上の患者の在宅介護をサポートしている内科医・遠矢純一郎氏は、日本初の「シルヴィア・ドクター」です。認知症の最新療で働く各国の医師たちと共に、カロリンスカ研究所の認知症ケアマスター研修プログラムに参加。その際、シルヴィア王妃が自ら修了証を手渡して下さいたことに感激し、国を挙げての関心の高さと専門教育の重要性を痛感したそうです。

「住み慣れた家」で最期まで。日本の老人ホームでは長期入所を経て亡くなる方も多いですが、スウェーデンでは、ほとんどの人が入所3年以内で亡くなるそうです。つまり、老人ホームは最後の最後に人生の終末を迎える場所であり、それまでは1日でも長く、自分の家で暮らすことを目指すのです。スウェーデンから、スウェーデンなどヨーロッパ各国の認知症対策もまた、患者と介護者の生活の質を維持しながら、できる限り住み慣れた家でのサポートに重点がおかれます。例えばシルヴィア・ホームでは、スウェーデンを代表するインテリアメーカー IKEA の協力を得て、大きな転換期を迎えています。日本の多くの社会保険制度は、働き手となる若い世代が多い時代を基準に作られたもので、そぐわないのは当たり前です。従来通り65歳を高齢者として線引きすると、人口構造はとて不安定です。けれど、これは何も悪いことではありません。今ここにいる私たちは、先人たちが夢見た健康でより長生きできるように「未来」を生きていくのです。例えば、「お年寄り」の定義を65歳から75歳に引き上げると、人口構造グラフは一気に安定するのです。21世紀の社会モデルは、ひとスウェーデンに学ぶ、最期まで自分の力で生きる心意気。私たちがスウェーデンから最も学ぶべきは「最期まで自分らしく、自分の力で生きる」姿勢かもしれません。認知症と共に暮らす中で、できないことが増えてきたとしても、できることをサポートこそが新時代の認知症ケアです。何でもやってあげること、当事者を守るのではなく、最大限に引き出し、活躍の場や機会を最大化するにはどうしたらいいかを、共に探っていくのです。認知症を考えることは、つまり自分らしく生きることは、何らかのサポートこそが求められます。（文責 谷本有香）

「生涯現役」社会への意識改革を。私たちは今、大きな転換期を迎えています。日本の多くの社会保険制度は、働き手となる若い世代が多い時代を基準に作られたもので、そぐわないのは当たり前です。従来通り65歳を高齢者として線引きすると、人口構造はとて不安定です。けれど、これは何も悪いことではありません。今ここにいる私たちは、先人たちが夢見た健康でより長生きできるように「未来」を生きていくのです。例えば、「お年寄り」の定義を65歳から75歳に引き上げると、人口構造グラフは一気に安定するのです。21世紀の社会モデルは、ひとスウェーデンに学ぶ、最期まで自分の力で生きる心意気。私たちがスウェーデンから最も学ぶべきは「最期まで自分らしく、自分の力で生きる」姿勢かもしれません。認知症と共に暮らす中で、できないことが増えてきたとしても、できることをサポートこそが新時代の認知症ケアです。何でもやってあげること、当事者を守るのではなく、最大限に引き出し、活躍の場や機会を最大化するにはどうしたらいいかを、共に探っていくのです。認知症を考えることは、つまり自分らしく生きることは、何らかのサポートこそが求められます。（文責 谷本有香）

取材後記。世界を見渡しても、日本ほど急速に高齢化が進んでいる国はありません。そんな高齢化先進国であるこの国で、強みである「技術」を生かし、課題を解決しようという試みが既に始まっています。一方、スウェーデンの介護に引き合う姿勢から学ばせていただいたのは、もっと利用者や高齢者に寄り添った「インディ」を生かすように、ということ。認知症は社会的疾病だといえます。つまりこれは、「高齢化する社会」に対する私たちのとらえ方次第で、未来の姿やあり方が形成されるということ。誰もが自分らしく生きられるように、思いやりを持って互いに寄り添う。確かに、そんな社会を誰もが望んでいるはず。



ロイヤルハウジンググループ 上席執行役員 谷本有香

ロイヤルハウジンググループは高齢者のより良い暮らしを応援するため、Dementia Forum X Japan に協賛しています。

高齢者のお住み替えを親身になってサポートします。

初めでの老人ホーム探し

相談実績年間9,000組以上 専門の相談員による丁寧なご説明 ご予算に合わせたご提案

高齢者住みかえ支援センター **ロイヤル入居相談室** 無料相談窓口 年中無休 (年末年始を除く)

店舗はすべて立ち寄りやすい駅の近くやデパート・スーパーの中にあります。	新宿 新宿駅徒歩2分 ☎0120-87-6186
そごう横浜店9階	多摩 イトーヨーカドー多摩センター店4階 ☎0120-64-6186
川崎 アゼリア	大宮 そごう大宮店10階 ☎0120-74-6186
横浜 ☎0120-58-6186	川崎 ☎0800-555-6186

信頼のサ高住管理

相談実績7万組以上 サ高住専門のスタッフ23名 取扱い：首都圏全域

サービス付き高齢者向け住宅 入居募集センター

サ高住運営会社様へ 管理の手間を解消しませんか?

広範囲への募集・周知 専門サイト「サ高住ネット」 入出金管理

▶入居者募集実績例：グランドマストシリーズ（積和グランドマスト）、スマイラス聖蹟桜ヶ丘（京王ウェルシステージ）、ウェルシアオリブシリーズ（NTT都市開発）他、多数

0800-888-6186 担当：小川・星野



健康企業宣言 創業44年 **ロイヤルハウジンググループ** グループ従業員440名、働く女性を支援します。 私たちと一緒に働きますか？ 採用TEL.0120-25-1811

www.royal-h.jp 検索

●首都圏の不動産売買・賃貸・リフォーム **ロイヤルハウジング株式会社** **ロイヤルハウジング販売株式会社** 本社/〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-3-17(新宿第1アオビル8階) 03-3367-1811(代)

●別荘・リゾートマンション・土地 **ロイヤルリゾート株式会社** 熱海・伊東 軽井沢・箱根 本社/〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-3-17(新宿第1アオビル9階) 03-5389-1111(代)

高齢者住みかえ支援センター **ロイヤル入居相談室** ●老人ホーム サービス付き高齢者向け住宅 相談 東京ロイヤル株式会社 神奈川ロイヤル株式会社 窓口 埼玉ロイヤル株式会社 045-277-2111(代)